

教授就任のご挨拶

やんばるの大学に着任して

名桜大学大学院看護学研究科人間健康学部看護科 教授 砂 川 昌 範（6期生）

琉球大学医学部医学科同窓会の皆様、6期生の砂川昌範と申します。2015年4月より公立大学法人名桜大学看護学研究科の教授に就任致しました。私は医学部卒業後、所属していたバスケットボール部の顧問であった小杉先生が主宰されていた生理学第一講座の大学院に入学し、血液生理学、血管生物学の研究を行い、平成8年3月に修了致しました。大学院での研究生活で今でも印象に残っている恩師からの教えの一つに、「夢見て、行い、考えて、祈る」という言葉があります。これは、疑問解決のために作業仮説を立て、検証のための実験を計画実行し、得られた実験データを論理的に解釈・結論付け、研究成果を学術論文として発表して第三者の評価を問うという一連の研究行為を端的に表しています。この順番こそが研究の正しい順番であり、順番を間違えると真実を捻じ曲げることになると教えられました。最近報道でよく取り上げられる論文の捏造も正しい大学院教育を受けていないことに起因しているように思えて仕方ありません。

その後、生理学第一講座の助手として採用されましたが、血管生物学の研究をさらに深化させるために、米国オハイオ州立シンシナチ大学医学部分子細胞生理学部門の客員研究員として留学させて頂きました。パッチクランプ法を用いて血管平滑筋のカルシウムチャネルの機能調節に関する研究を行い、帰国後も研究室に電気生理学のラボを立ち上げさせて頂き、学部学生や大学院生とカルシウム電流を測定する日々を過ごす事が出来ました。

昨年は、縁あって医学教育企画室の講師として国際認証のためのカリキュラム改正に取り組ませて頂きました。その仕事を通して医学教育が如何に多くの大学内外の先生方に支えられて成立しているかを目の当たりにすることが出来ました。学生である後輩たちは今のカリキュラムを享受出来て羨ましいと思います。

大学入学から此れまで琉球大学医学部に学生として教官として30年間通い続けてきました。通いなれた場所を離れて新たな職場に赴任するのは正直言って少し物悲しく

もなりました。ただ愚息が母校に入学したので、「生理学」の講義をする機会があり、何となく自分の中の「医学」をバトンタッチすることが出来たような気持ちにさせられました。

近況を述べさせて頂くと、こちらの大学に来て初めて医学部になかったゼミ単位での授業を受け持ち、戸惑っています。さらにこれまでオムニバスで生理学を講義していたのですが、解剖生理学、病態生理学を全部一人で講義を行わなくてはならず、講義資料を作って講義をする、の繰り返しです。研究ラボは現在改修中です。細々とですが、何とか今までの研究を継続できそうなので安心してしています。

昨年、沖縄山岳会に入会したこともあって週末ともなるとやんばるの山に登り、これまで気にも留めなかった山行の途中で見つけた動植物を図鑑やネットで検索して、同定することが出来たときは子供のように喜んでいます。やんばるの環境にとっても近い大学に赴任することができ、ますます自然の中に身を投じて生きたいと思います。その中から何か面白い研究材料も見つかると思い、と密かに思っています。

これからも看護教育・病院実習や研究のことで同窓会の皆様のお力を貸していただくことも多いことと存じます、その折にはどうか宜しくお願い申し上げます。

最後になりましたが、同窓会の皆様のご健勝と益々のご活躍を祈念いたしまして挨拶といたします。



看護学科1年次のゼミ学生と